食農 ぴっくあっぷ

2022年12月号
No. 165
東海農政局
企画調整室

MAFF
Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries
農林水産省

令和4年度農林水産関係第2次補正予算案の概要
※食料品等の物価高騰対応のための緊急パッケージ関係

令和4年度農林水産関係第2次補正予算案のうち、「食料安定供給・農林水産業基盤強化本部」において決定された「食料品等の物価高騰対応のための緊急パッケージ」に記載された内容をご紹介します。

1．下水汚泥資源・堆肥等の利用拡大によるグリーン化の推進と肥料の国産化・安定供給

◆**ペレット堆肥流通・下水汚泥資源等の肥料利用促進技術の開発・実証** 10億円（国土交通省と連携して対応）
ペレット化した堆肥の広域流通や下水汚泥資源を原料とする肥料の製造効率化の実証等を支援

◆**国内肥料資源利用拡大対策** 100億円
畜産農家、肥料メーカー、耕種農家等の連携による国内資源の利用拡大に向けた取組を支援

◆**みどりの食料システム戦略緊急対策** 30億円
土壌診断による化学肥料の低減やスマート農業技術の活用などのグリーンな栽培体系への転換等の取組を支援　など

家畜ふん堆肥

下水汚泥

ペレット堆肥

化学肥料との混合肥料

2．小麦・大豆・飼料作物の国産化の推進

◆**国産小麦・大豆供給力強化総合対策** 64億円
産地と実需が連携した麦・大豆の安定供給に向けた生産性向上等を支援

◆**畑地化促進事業** 250億円
水田を畑地化した麦・大豆等の定着の支援等

◆**産地生産基盤パワーアップ事業** 306億円の内数
麦・大豆の増産に必要な施設整備の支援等

◆**飼料自給率向上総合緊急対策** 120億円（所要額）
耕畜連携の取組等による国産飼料の生産・利用拡大等を支援

◆**米粉の利用拡大支援対策** 140億円
米粉の商品開発、米粉製粉・製品製造能力強化等を支援　など

小麦・大豆の国産化の推進

3．食品ロス削減対策の強化と食品アクセスが困難な社会的弱者への対応の充実・強化

◆**食品ロス削減及びフードバンク支援緊急対策** 3億円
厳しい納品期限の商慣習の見直し等を促進した上で、フードバンク等への寄付が進むよう、輸配送費等を支援

◆**食育の推進** 5億円
こども食堂、こども宅食等の食育の取組を支援　など

食育の推進

令和4年度農林水産関係第2次補正予算の概要はこちらをご覧ください
https://www.maff.go.jp/j/budget/r4hosei.html

お問合せ先　企画調整室　　TEL　052-223-4610

食料・農業・農村基本法の検証・見直しについて

農林水産省は、食料・農業・農村基本法について、制定後約20年間で初めての法改正を見据え、総合的な検証・見直しを行います。さまざまな意見を伺い、国民的コンセンサスをしっかり形成していくことが重要であることから、食料・農業・農村政策審議会の下に基本法検証部会を設置し、同部会において検証・見直しの検討を進めています。

基本法検証部会の進め方

時　期	事　　項
令和4年 9月29日	食料・農業・農村政策審議会に諮問 基本法検証部会を設置
10月18日 ⇩	第1回基本法検証部会 ◆月２回程度のペースで開催 ◆以下のテーマに関し、有識者ヒアリング、施策の検証、意見交換等を実施 ・食料の安定供給の確保 （食料安全保障、輸出促進を含む） ・農業の持続的な発展 ・農村の振興 ・多面的機能の発揮
令和5年	上記のヒアリングや検証等を踏まえた議論

開催状況

◆第1回 10月18日開催
テーマ「食料の輸入リスク」

◆第2回 11月　2日開催
テーマ「国内市場の将来展望と輸出の役割」

◆第3回 11月11日開催
テーマ「国際的な食料安全保障に関する考え方」

◆第4回 11月25日開催
テーマ「人口減少下における担い手の確保」

◆配布資料、議事概要など詳細は、基本法検証部会Webサイトをご覧ください

ご意見・ご要望がありましたら、東海農政局企画調整室までご連絡ください。
メールアドレス：tokai_kikaku@maff.go.jp

つなぐ棚田遺産　～ふるさとの誇りを未来へ～

棚田とは、一般には山の斜面や谷間の傾斜地（傾斜1/20以上）に階段状に作られた水田のことです。
伝統・文化、美しい景観、教育、国土保全といった多面的機能を有しており、農業生産活動を主体としつつ、地域住民活動によって守られている国民共通の財産です。

しかし、担い手不足が進み農業のみに着目した棚田維持には限界があることから、令和元年には棚田地域振興法が制定され、その趣旨に基づき、棚田地域の振興に向けた取り組みが広がっています。

～棚田保全・継承への取り組み～

石積みの草取りや補修、LEDの設置作業、獣害防除柵の設置や撤収、オーナー制度の導入、ウォーキングイベントなど

地域住民だけでなく都市部の人たちとともにみんなで「棚田」を保全・継承しています

「日本の棚田百選」坂折棚田がある岐阜県恵那市中野方町の棚田群
写真提供：NPO法人恵那市坂折棚田保存会

パンフレット「つなぐ棚田遺産」こちらをご覧ください →
坂折棚田の風景が表紙を飾っています

3年ぶりに「稲刈りの集い」が開催された三重県熊野市の丸山千枚田と、この集いに参加した小林東海農政局長（令和4年9月撮影）

～ お知らせ ～

◇ **棚田地域振興に貢献する企業等に感謝状を贈ります**
「つなぐ棚田遺産」で棚田地域の振興等に貢献する企業・大学などの活動事例を募集しています。12月23日（金曜日）まで募集中

◇ **スタンプラリーイベント「おうちで巡ろう ～選ばれし三重の美しい棚田～」**
12月31日（土曜日）まで開催中

お問合せ先　農村振興部 地域整備課　TEL 052-223-4639

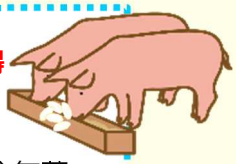
第61回農林水産祭内閣総理大臣賞を受賞しました

第61回農林水産祭の畜産部門において、**岐阜県高山市で養豚を営む有限会社吉野ジーピーファームの吉野毅さんと聡子さん夫妻が内閣総理大臣賞を受賞**されました。

吉野夫妻は、脱サラし、平成元年に**豚の繁殖から肥育までの一貫経営**を起業、現在岐阜県下で3農場（高山市・中津川市・白川村）を展開するまでに規模を拡大しています。

徹底した衛生管理体制や完全無薬飼育を確立した取り組みは、感染症に悩む全国養豚場の規範となるものと高く評価されました。

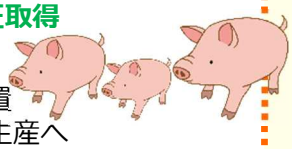
取組内容



- ◎ **白川農場のJGAP（家畜・畜産物）の認証取得**
- ◎ **耕畜連携・6次産業化・女性活躍の実現**
- ◎ **徹底した衛生管理体制や完全無薬飼育の確立**
  抗生物質・合成抗菌剤等を一切使用しない完全無薬飼育を実践
- ◎ **豚の排泄物を利用したペレット化堆肥の生産**

内閣総理大臣賞を授与された吉野毅・聡子ご夫妻

今後の目標



- ◎ **中津川農場と高山農場のJGAP認証取得**
- ◎ **さらなる経営の多角化**
  - ・加工販売施設と精肉販売店の設置
  - ・加工品製造を外部委託から自社生産へ
  - ・地域に根ざした地域振興、耕畜連携による農業振興

お問合せ先　生産部 畜産課　　TEL 052-223-4625

徹底した衛生管理体制の豚舎

吉野ジーピーファーム Webサイト

地域密着型の営農と人材育成・雇用定着への取り組み

事例紹介

三重県明和町の株式会社ヤマヨ組は、「地域に根ざし、人を育てる」をモットーに、地域の農地を集約し水稲・小麦・大豆などを栽培しています。農業従事者の高齢化が進行する中、社員11名のうち8名が40代以下の若い職場であり、人を育てることを重視した職場環境づくりにより、設立以降の離職者は独立就農した1名のみなど、長期安定雇用を実現し、農業関係者からも注目されています。

地域に根ざす

●農地集約
- ・地元集落と隣接集落の計3集落の約140ha（うち約110haを利用権設定）を集約
- ・3集落の全面積の約50%をヤマヨ組が営農
- ・農地は、半径1.5km以内に約80%が集約され、移動ロスを減らして丁寧な作業に専念

●地域貢献
- ・代表の小竹氏は、指導農業士として地域農業でリーダーシップを発揮
- ・三重県農業大学校の卒業生を積極的に雇用

人を育てる

●キャリアプラン
2年目：先輩オペレーターの補助
5年目：作業責任者、新入社員のトレーナー役

●研修の実施
- ・GAPや農業機械の安全などの外部研修
- ・雨天時の社内研修会

●余裕を持った人員配置と働きやすい環境づくり
- ・人材の育成時間が確保できる
- ・急な休暇でも他の社員がカバーできる

長期安定雇用を実現

- ●地権者とのコミュニケーションを重視し、感謝されることで社員のモチベーションUP
- ●人材育成により長く働ける環境が整備され、人材を確保
- ●社員の栽培管理技術、経営管理を向上させ、後継者を育成

社内研修会で意見交換する様子

株式会社ヤマヨ組 社員の皆さん

お問合せ先　株式会社ヤマヨ組
三重県多気郡明和町大字八木戸250番地1　TEL.0596-55-3331

高病原性鳥インフルエンザが異例のペースで発生しています

●今シーズンに入り、11道県（岡山県、北海道、香川県、茨城県、和歌山県、兵庫県、鹿児島県、新潟県、宮崎県、青森県、宮城県）17事例の高病原性鳥インフルエンザが発生しています（令和４年11月24日現在）。
すでに昨シーズンを超える280万羽以上が殺処分対象となっています。
●全国的に環境中のウイルス濃度が非常に高まっていると考えられるため、一層厳重な警戒が必要です。
●東海3県は採卵鶏の飼養戸数が多く、発生リスクが高いため、ウイルス侵入防止対策を徹底してください。

畜産農家の皆さまへ

家きんの飼養者の皆さまには、徹底した消毒と防鳥ネットの点検・修繕、ねずみの駆除など、飼養衛生管理基準の再確認をお願いします。

車両の消毒

破損の修繕

- 毎日の観察を十分に行い、家きんに異常を見つけた場合は、速やかに家畜保健衛生所に連絡してください。
- 家畜伝染病の発生予防の取り組みには、交付金などの支援があります。

消費者の皆さまへ

流通している鶏肉や鶏卵は安全なものです。
根拠のない噂などにより混乱することのないよう、ご協力をお願いします。

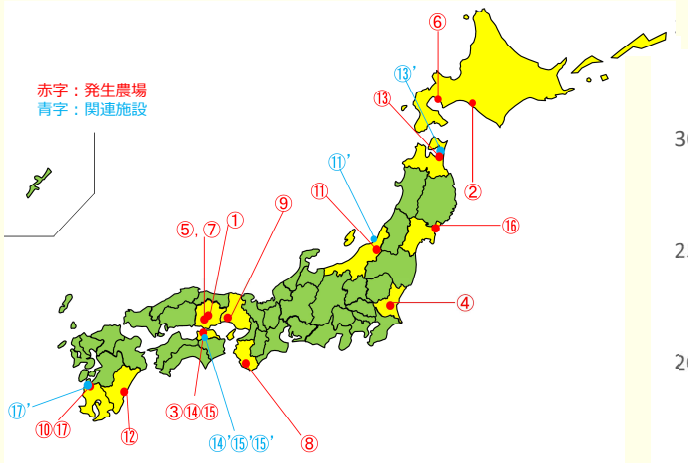
～食品安全委員会による日本の食品安全の考え方～

- 鳥インフルエンザの感染が疑われる鶏等の肉や卵が流通することはありません。
- 鶏肉や鶏卵を食べることにより、ヒトが鳥インフルエンザに感染する可能性はありません。

詳細は農林水産省のWebサイトをご覧ください
https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/

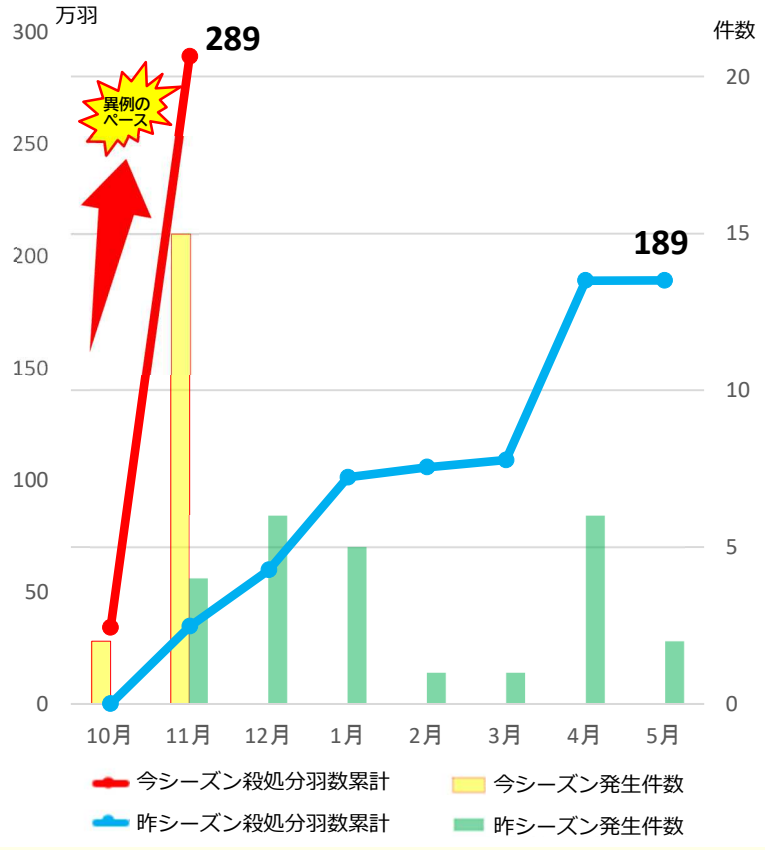
今シーズン 国内における高病原性鳥インフルエンザ発生状況

（令和4年11月24日現在）



	発生道県	発生月日	飼養羽数（羽）	
①	岡山県	10月28日	採卵鶏	約17万
②	北海道	10月28日	肉用鶏	約17万
③	香川県	11月1日	採卵鶏	約４万
④	茨城県	11月4日	採卵鶏	約104万
⑤	岡山県	11月4日	採卵鶏	約51万
⑥	北海道	11月7日	肉用鶏	約15万
⑦	岡山県	11月11日	採卵鶏	約3万
⑧	和歌山県	11月11日	あひる等	約60
⑨	兵庫県	11月13日	採卵鶏	約4.4万
⑩	鹿児島県	11月18日	採卵鶏	約12万
⑪⑪'	新潟県	11月18日	肉用鶏	約15.6万
⑫	宮崎県	11月20日	採卵鶏	約16万
⑬⑬'	青森県	11月20日	肉用鶏	約13万
⑭⑭'	香川県	11月22日	肉用鶏	約3.3万
⑮⑮'	香川県	11月23日	採卵鶏	約3.4万
⑯	宮城県	11月23日	肉用鶏	約2.1万
⑰⑰'	鹿児島県	11月24日	採卵鶏	約7.8万

昨シーズンとの比較（殺処分羽数、発生件数）



お問合せ先　消費・安全部 畜水産安全管理課　　TEL　052-223-4670

＜編　　集＞東海農政局 企画調整室　　TEL 052-223-4610
＜Webサイト＞ https://www.maff.go.jp/tokai/　東海農政局

「食・農ぴっくあっぷ」Webサイト

メールマガジンの登録はこちら